

明日の小山田を考える会の目的は、住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創ることです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

## 雪質良好！パウダースノーのゲレンデを



北上市夏油高原スキー場を会場に、教育振興部「スキー・スノーボード教室」が未就学児1名を含めた6名の子ども達と保護者・指導員・事務局員の16名の参加で開催されました。車中で教育



振興部長より「昨年とは違い、今年は天候に恵まれました。」とあいさつをしたのですが、スキー場に近づくとつれ小雪混じりとなり、到着した際には風混じりの天候となりました。参加者はそんな天候も気にせず準備を整え元気にゲレンデに出ていました。指導員には昨年に引き続き石鳩岡の菊池忍さん、新地の菅原猛さんと夏油高原スキー場インストラクター2名により、各コースに分かれて指導をいただきました。今シーズン初めての人も多く、最初は四苦八苦していたようですが、指導を受けながら徐々に感覚を取り戻していたようでした。午後からは、未就学児を含め全員がリフトに

乗り上からの滑走が出来るまでとなりました。子ども達の上達は早い  
ですね。指導を終え、帰路のバスの中では疲れてゆっくり休むかと思っ  
ていましたが、よほど楽しかったのか到着まで賑やかな車中でした。



## 人口減少の対応をどう考えますか



合澤誠一 会長



金澤富一 事務局長

2月24日、事務局で取組んでいる人口減少対応事業の2回目を町内の団体「たてまち地域づくり協議会」の視察研修を役員をはじめ15名の参加により開催しました。この協議会は谷内第1行政区内で抱える人口減少や高齢者が日常生活で抱える課題、農用地や自然環境等の保全、地域や農業の担い手不足など、個人や既存の組織・団体の力だけではできない問題の解決のために、現在国が支援する農村型地域運営組織「農村RMO」の事業を取入れ、農用地の保全・地域資源の活用・高齢者の生活支援の事業に取り組んでいるとのことでした。また、担い手確保や人材育成のために地域への観光やイベント参加による「交流人口」と地域の人々と多様に関わりを持つ「関係人口」の取組も行っているそうです。さらに、地域住民のふれあいの場づくりとして、集落センターに隣接する遊休農地を借入、誰でも活用出来る

「ふれあい農園」の活動と、地域内の史跡や名所などのお宝を調査し「お宝マップ」を作成するなど地域の魅力の発信を進めているとの事でした。抱えている悩みはどの地域でも一緒です。発想の転換が必要だと感じました。



# 日頃の練習成果を思う存分発揮



演目の紹介をする児童

毎年2月11日の建国記念の日の祝日に開催している「後継者育成郷土芸能発表会」が小山田振興センターを会場に東和地区教育振興運動実践協議会小山田支部と共催で開催しました。当日は地元市議会議員をはじめ、小川口東和小学校長、岩角東和中学校長、及川東和町芸術文化協会長のご臨席をいただきました。小山田地域で受け継がれている芸能を、子どもたちが日頃の練習の成果を力いっぱいステージで披露してくれました。地域内外から大勢の皆さんが来場し終始拍手を送っていました。また、昨年に引き続き子どもたちから演目の紹介をしてもらいました。

○ 外谷地、北小山田  
《外谷地太神楽田植え踊り》  
その年の豊作を祈り、農作業の様子を踊りに表現した演目の中の「こきりこ踊り」と「笠ゆり」



○ 石鳩岡  
《石鳩岡子供荒鷲太鼓》  
平成2年に発足した創作和太鼓の演奏「合わせ太鼓」「荒鷲太鼓」の二演目を披露

○ 前田、留ヶ森、古田  
《御祝い》  
様々な宴会の席で歌われている「祝い唄」



○ 秋葉、駒形、中川目、南川目  
《こきりこ「田植え踊り」》  
旧小山田小学校運動会で毎年踊られていた、こきりこ「田植え踊り」

小山田保育園児「神楽」  
後継者育成郷土芸能発表会



中学生/石鳩岡神楽「鶏舞」



中学生/石鳩岡神楽「三番叟」



# 野菜の育種、栽培研究の施設を訪問



2月15日、産業振興部「地域農業研修会」が開催され、宮城県栗原市瀬峰諏訪原にある「株式会社渡辺採種場 瀬峰研究農場」を訪ねてきました。この農場は栽培技術指導や講習会、現地指導、農場での参観案内や野菜の新品種の育成と普及に取り組

んでいる施設です。当日は農場長の早坂良晴さんと岩手連絡所長の桂健也さんのお二人から野菜指導と試験農場内の案内をしていただきました。同じ野菜でも品種によって味覚はもとより播種や収穫時期が大きく異なるので、収穫する時期を最初に決めて播種をしてくださいとの事でした。また、カボチャなどのツル科の野菜は45度に傾けた「斜め定植」により親づるの誘引、子づるの整枝が省略出来るそうですよ。午後は、今一関市で問題視されている「白い農地」について、東山町松川地域の中通集落協定の代表の方にお会いし、経緯と今後の見通しについて話を聞く事ができました。“かつては牧草を栽培していましたが、東日本大震災による福島第一原発事故の影響で除染を行った後、牧草地としては使えなくなり、雑草を刈るだけの農地となった。別の農家から「市内の鉱山から出た石灰の置き場所として農地を提供をした」という話を聞き、地域の会社に貢献出来ればとの思いもあり、農地現状変更届を提出して受理されたことから無償で提供した。”と話してくれました。高齢になり、農業も出来なくなり、農地をどう管理していくか、共感を感じる部分もあり他人事には思えませんでした。



## 各専門部が来年度の事業策定に



産業振興部会



総務部会

来年度事業計画策定にあたり、2月14日から5つの専門部が来年度事業策定についての会議を開催しました。生活環境福祉部会では、「にこにこサロン」の参加者が年を追うごとに高齢化してきているのでサロンの内容について検討を行いました。また、教育振興部会では、長年地区の児童を対象に生涯学習として続けてきたスキー教室の取組について、児童数の減少に伴い見直しが検討されました。産業振興部会では、日々変化する農業政策の対応として地域内の農業関係団体の連携(ネットワーク化)を図るため、当部会や会が窓口として支援できないものかとの要望があげられました。



剪定後

小山田振興センターのシンボル「しだれ桂」の剪定を非営利活動法人・わが流域環境ネットに委託し行いました。長年にわたり剪定を行わなかったため、木が高く伸びすぎ、枝が広がった事から今回の作業となりました。木の高さや枝の広がりバランスを見ながら仕上げていただきました。敷地が狭く高所作業車を使っての作業がむずかしい事から、今回「ロープ高所作業」となりました。この作業に従事するためには特別教育「ロープ高所(樹上作業)者」の受講修了者でなければ出来なそうです。



剪定前



剪定作業

★今年度の各種団体への地域づくり交付金の支援内容を紹介します。

○地域史跡等環境保全補助事業

■小原樗山公園（外谷地）



■軽井沢つつみ公園（前田）



○伝承活動支援事業

外谷地太神楽田植え踊り保存会  
錫杖と手平鉦



○中核農業者研修事業

小山田の明日の農業を語る会  
営農組織の取組み(二戸市・金田一営農組合)



○市道側溝蓋設置事業

■第1行政区自治会  
石鳩岡区地内市道小山線側溝（200m）



○公民館施設整備助成事業

■絹川集会所2000/エアコン



\*施設の夏季時使用の暑さ対策と熱中症予防のための新設に対する支援

令和7年2月末現在

( ): 前月比

小山田の人口	世帯数/戸	男/人	女/人	計/人
第1行政区	52 (0)	75 (0)	62 (0)	137 (0)
第2行政区	147 (-1)	185 (-1)	182 (-1)	367 (-2)
第3行政区	152 (-1)	186 (0)	214 (-2)	400 (-2)
第4行政区	111 (0)	159 (-2)	154 (-1)	313 (-3)
計	462 (-2)	605 (-3)	612 (-4)	1,217 (-7)

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています



～私のひとり言～ 昨年の夏頃から「令和の米騒動」と騒がれ米の高騰が今も続いています。2月14日に江藤農水相が「備蓄米の放出」を発表しました。ある米流通評論家は“米農家の廃業や高齢化が進みこの10年で作付面積が2割も減少し、今後さらに進み、米の生産量の減少は目に見えている。若い担い手や農地の集約、減反の見直しなど、根本的な農業を保護していく政策や生産量を増やす政策をしない限り米高騰は続くだろう。”と話していました。「消えた21万t」、実際政府が示した24年産米の収穫量は正しいものなのか？昨年は異常気象や自然災害が多く発生した事により収穫量は減っていると思うので、もともとなかったのではと疑問を抱くばかりです。(菊池)

発行：明日の小山田を考える会・電話：0198-42-2941  
ホームページ：http://www.asuno-oyamada.jp  
メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp

